



網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教師出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会長年頭挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は年祭活動仕上げの年にあたり、お道の上に又大教会、それに繋がる教会へ、力一杯ご尽力を賜りましたこと心より御礼申し上げます。いよいよ教祖140年祭を迎える年となりましたが、真柱様は本年の年頭挨拶にて「今年は年祭という一つの節目を目指してつとめてきた、その結果が表れてくるのであります」とのお話を下さいました。

今年の大教会活動目標は「全ようぼくおぢばがえり」と掲げ、

1月26日より、網走大教会に繋がるすべてのようぼくがおぢばへ帰り、かんろだい、また教祖殿へ足を運び御礼をさせて頂き、詰所にてようぼく帰参台帳に記帳して頂くこととなりました。特によくの方は今年1年の間に必ずおぢば帰りをさせて頂き、おやさまに御礼をさせて頂くまろしくお願ひ致します。

立教百八十九年 正月
網走大教会長 三幣 健志



神殿講話全文

新川正人理事

12日前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。大教会長は祭文で、「本年は、教祖百四十年祭へと向かう三年千日の仕上げの年として、引き続き『教祖のひながた』を目標に全教会心定めの達成』を活動目標に掲げ、網走大教会に繋がる全ての教会長が、人の御守護を頂戴するべく、ひたすら声掛けに奔走さ

その後座りづとめ・十二下りのてをどりがつとめられ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

の御守護を頂戴させて頂きました」と奏上した。

二つ、おつとめ、三つ、お守りとご供さん。

・おさづけの理

まずはおさづけであります。が、私は小さい頃、身体が弱くて、網走のよふばくでありました、笹谷ヨシゴ婦人様にいつもおさづけを取り次いで頂いておりました。取り次いで戴くたびに何か温かく、おやさまに抱いて頂いておるような心もちになつていきました。

お陰様で段々、ご守護いただき、元気にならせて戴き、おやさまのおかげだなと思うようになり、おやさまに恩返しをさせて頂くには、お助けの道を生涯、通らせて頂こうと、十五歳の時に、網走、当時は分教会でありましたが、

只今は、御存命のおやさまの年祭をお迎えさせて頂く時旬であります。ここで改めて存命と、国語辞典で紐解くと、存命とは、この世に生きていること、又は生き続けること、死なずに生きた状態のままでいる事と書いてあります。皆様も、存命のおやさまの

おやさま年祭活動仕上げの年、それぞれの心定め完遂に向かつて皆様方、大教会長様を先頭に大教会一つになつて動き努めさせて頂きます事に心からお労いを申し上げます。

大教会十一月月次祭

大教会12月の秋季大祭は、12日前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、「本年

せて頂きました。中でも理づくりとして本年は、諭達の実働十万件を心定めさせて頂きましたが、網走に繋がるもの達が一丸となり取り組んだ結果、三十万件に迫る勢いとなり、お陰によりまして、仕上

げの年にふさわしい大きな人の御守護を頂戴させて頂きました」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下

りのてをどりがつとめられ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

一つ、おさづけの理

まずはおさづけであります。が、私は小さい頃、身体が弱くて、網走のよふばくであります、笹谷ヨシゴ婦人様にいつもおさづけを取り次いで頂いておりました。取り次いで戴くたびに何か温かく、おやさまに抱いて頂いておるような心もちになつていきました。お陰様で段々、ご守護いただき、元気にならせて戴き、おやさまのおかげだなと思う

ようと、十五歳の時に、網走、当時は分教会でありましたが、

お働きは、日々感じておられる存命のおやさまを感じさせて頂いております事、幾つものある中、私なりに、三つお話をさせて頂きます。

一つ、おさづけの理

二つ、おつとめ、三つ、お守りとご供さん。

私が、存命のおやさまを感じさせて頂いております事、幾つものある中、私なりに、三つお話をさせて頂きます。

お働きは、日々感じておられる存命のおやさまを感じさせて頂いております事、幾つものある中、私なりに、三つお話をさせて頂きます。

▼大教会长夫妻に12月2日、次女誕生。「恵利奈(えりな)」と命名された。

誕生

12月人のご守護

○別席傍聴願	○教人登録者	○教人資格検定講習修了者	○修養科修了者	○おさづけの理拝戴者(2名)	○初席者	○中席者
誠 網 網 直 網 綱 新 新 轄 網 中新 椎 大 中 椎 島 川 木 番 島 木	誠 網 網 直 網 綱 新 新 轄 網 中 椎 島 木	誠 網 網 光 轄 轄 八 重 檻 原 谷 田 田	直 直 輛 輛 輛 轄 輛 輛 輛 輛	直 直 輛 輛 輛 轄 輛 輛 輛 輛	才ホーツク 山下 貴世華 (3名)	オホーツク 山下 貴世華 (3名)
(1名)	(4名)	(2名)	(5名)	(2名)	(1名)	(1名)
義功 周 博汰 勝子	義捷 真弓 博勝	沙也 加子 栄子	典子 心優	幸斗 暉聖	輔大 輔	輔

仕上げの年

～年祭当日をうれしい心で迎えよう～

実動件数
258,017 件
(11月12日現在)

六教会12月の動き											
13日	12日	11日	10日	9日	7日	6日	1日	役員会会議。直轄世話人会	お話し食堂。会長、	縦の伝道日	瀬川巖の靈様50年祭、
教 会 長 夫 妻 練 り 合 い	員 会	連 絡 会。よ う き 会 役	成 部 部 会	祭 主 つ と め る	半 澤 綾 の 霊 様 10 年 祭	役 員 会 会 議。会 長、	網 走 支 部 例 会 会 場	瀬 川 多 津 恵 の 霊 様 10 年 祭 祭 主 つ と め る	本 部 月 次 祭 邇 拝。結 餅 つ き。年 末 年 始 話	会 長、本 部 神 殿 奉 仕 つ と め る	会 長、お ち ば が え り。
31日	30日	29日	28日	27日	26日	25日	24日	23日	20日	17日	14日
元 旦 祭 准 備	大 教 会 一 斉 活 動 日	みそか会	藤 山 重 善 役 員、本 部 神 殿 奉 仕 つ と め る	会 長、かなめ会 出 席。	城 和 広 役 員、本 部 神 殿 奉 仕 つ と め る。1 年 の お 礼 づ と め	新 川 正 人	胡 三 味 琴	詰 所 23 会	会 長、札 幌 方 面 信 者 宅 ま わ り (22 日 ま で)。こ ど も 会	瀬 川 家 様 (年 祭)	渡 井 達 也 様 (母 葬 儀・出 直) 旭 網 分 教 会 (三 代 会 長 出 直)
よ う ほく	修 卒	教 人	当 月	累 計	よ う ほく	修 卒	教 人	当 月	累 計	よ う ほく	修 卒

立教188(令和7)年人のご守護成果表(12月末現在)

教 会 名	初 席	中 席	よ う ほく	修 卒	教 人	帰 参 者		教 会 名	初 席	中 席	よ う ほく	修 卒	教 人	帰 参 者	
						当 月	累 計							当 月	累 計
直 輄	5	23	5	7	1	1	124	誠 央	1	1				1	25
美 幌							7	常 道							2
女 满 別	1	1				2	59	徳 道	1	5	1			2	54
斜 里 町						2		満 金		1					3
釧 厚			1			12		網 安							1
武 士				1		1	10	オホーツク	3	2				2	16
常 呂	1					12	61	網 徳							4
旭 網	1	2				1	18	栗 沢	6	1	2				32
御 料	2	1				2	11	徳 元	1	1					18
東 藻 琴						1		網 盛		1					5
陽 光	2	2		1		20		網 新	1	8		2	2	1	19
呼 人						1	14	網 葉							1
誠 陽		2					8	網 陽							12
網 栄		1					6	誠 網	7	26	4	7	1	3	84
實 東	2	2				1	52	網 次	1	7					27
東 網	1					7		網 昇		1					27
宗 稚						1	18	勇 走						1	14
								詰 所							152
初 席	中 席	よ う ほく	修 卒	教 人		当 月	累 計		初 席	中 席	よ う ほく	修 卒	教 人		帰 参 者
当 月 成 果	当 月 成 果	当 月 成 果	当 月 成 果	当 月 成 果		当 月	累 計		当 月	中 席	よ う ほく	修 卒	教 人		帰 参 者
1	26	4	96	2	13	5	21		4	4	4	32	926		

秋季大祭 12/12(日)											
<参拝者数 約120人>											
神殿講話	賛 者	指図方	扈 者	祭主	祭員	祭典	役割	座り	づとめ	前半	後半
新川 正人	田安三村永井 中田澤井	細木 光春 繁広 康 善信	三松 篤志 正志 正志	大教 会長							
胡三 味琴	小す太拍 り や が 笛 弓線	地 方	子ん笛 鼓ね鼓木ん		てをどり						
藤丸瀬井山川のと りく恵子江	三栗三澤田城 幣林	細木 田藤川山 山川教 会長	瀬川山 山川教 会長	藤三 大新 道輝 雅子 人 人 長	座り	づとめ					
藤瀬結山川城 真祐和理子	清瀬遠栗吉永 水川田林村井	田菅小 中原松 明篤志 繁宏志	青三 新遠在青 山幣川藤原山 聖有知明道正 子子子廣彌博	青三 新遠在青 山幣川藤原山 聖有知明道正 子子子廣彌博	前	半					
新瀬川幣千穂祐有子	澤瀬奥野水山原 田川野水山原 敦春志雄実	三三村 幣澤井 敦春志雄実	眞結壁城 幣藤川壁 美香和代浩正 織子子二美教	眞結壁城 幣藤川壁 美香和代浩正 織子子二美教	後	半					